

一声社：TEL03-3812-0281/FAX03-3812-0537

今日は何の日？

9月21日は、宮沢賢治、廣津和郎、宇野浩二が亡くなった日です。

閑話休題—あんた、誰？

学生時代、お金もないのに毎日コンパだ、お祝いだ、残念会だと呑み歩いていたヨネやん。駅近くで呑んだ時は、寮までたどり着けず、同じクラスの友人F宅に転がり込むこと多々あり。そこさえたどり着けず、電柱に寄りかかって眠ることも数度。

その日、もはや何の目的で呑みに行ったのかさえ誰も覚えていないような激しい酒宴が繰り広げられた。今ならネットで拡散されそうな大騒ぎをした挙句、連れの「ちゃんと帰れるんか？」の声を背にフラフラと絵に描いた様な千鳥足で歩く。そう、歩き出したところまではよく覚えていたのだが……………。

チュン、チュン。トン・トン・トン…。
「まぶしい。朝か？ Fが朝ご飯を作ってくれてるんかな？ そんなマメやったっけ？ 毛布も掛けてくれてるし」—そんな事を思う内、またウトウト。

「あれ？ 音楽が流れてる。Fって、こんな歌手が趣味なん？ 忌野清志郎が好きやのに。あいつの嫌いそうなアイドル系の音楽やん」

目が覚めて来て、段々頭が回り出す。あれ？ 部屋の様子が違う。模様替え？ 本棚には、明らかに専門違いの本ばかり。どうなってるん？ 毛布をはねのけてがばっと起き上がったヨネやんに声が掛かる。

「起きましたか？」—聞いたことのない

い声や…。

「あんた、誰？」「あなたこそ、誰です？」
「えっ？ Fは？ 出かけた？」「Fって、誰ですか？」「でも、ここはFの下宿やろ？」
「知りません。僕の部屋です」

えっえ～っ！ そんなアホな。部屋を間違えた？ でも、窓から見える景色は明らかにFの部屋。懸命に考えるヨネやんに、その彼は言った。

「夕べ遅くにあなたが部屋のドアを激しく叩いて、『開けろ！ 入れろ！』と叫んでいたんです。近所迷惑なのでドアを開けたらいきなり部屋に入って来て、言うんです。『お前誰や？ Fはどこ行った？』って。

『Fなんて知りません。ここは僕の部屋です。帰ってください』と断ったのに、『かまへん、かまへん、気にするな』って無理に入って来て、そこで寝てしまったんです」

ああ、そうなんですわね。そんなひどい事が…。それで、あなたは見ず知らずの私を泊めてくれたんですね。おまけに毛布まで掛けてくれて、わえ。

「寒いから風邪ひくといけないと思って」

あかん。なんという心優しい青年や。これ、もし女性の部屋やったら警察沙汰でっせ。「ほんまにごめんなさい。そして、ありがとう！」—そうして、奈良の新しい一日がまた始まるのであった。（*Fは2か月前に下宿を替えた、その日、本人から聞いた）

一声社 NEWS

『ハンカチでおはなし』（藤田浩子）

いよいよ10月中旬新刊。『あやとりでおはなし』のシリーズ第2巻です。新刊委託予約受付中。お早めにどうぞ！